

独立行政法人国立病院機構
 **松江医療センター**
呼吸器病センター
 〒690-8556
 松江市上乃木5丁目8-31
 TEL (0852) 21-6131 FAX (0852) 27-1019
 URL <http://www.hosp.go.jp/~matsue/>
 発行責任者
 院長 徳島 武
 編集者
 事務部長 亀崎 卓夫



松江しんじ湖温泉街と宍道湖しじみ漁

宍道湖の北岸に位置するこの温泉街は1960年代から次第に開業する旅館が増え始め、現在に至る。宍道湖で採れるしじみは汽水域に生息するヤマトシジミという種類で、その全国シェアは約40%となっている。

もくじ

年頭所感「今年のテーマは、チーム医療の推進」	2～3	院長杯争奪ポーリング大会	11
医療教育研修室から「地頭力を上げるには」	3	2階病棟患者さんの創作活動紹介	12
第63回国立病院総合医学学会に参加して	4	電動車椅子サッカー中国選手権大会に行ってきました！	
第4回クリティカルパス大会を開催して	4	松江コンビッグ東広島遠征記 パートII	13
第2回医療安全管理研修会 結核について知識を深める	5	しじみ会（十月中秋号・十一月晚秋号・十二月初冬号）	13
看護部教育委員会から「口腔ケアを見直そう」と「看護と倫理」の取り組み報告会を開催して	6～7	栄養管理室より 海と山の幸でバランスが良いおせち料理etc.	14
第7回（2009年度）国立病院看護研究学会学術集会に参加して	7	天理教ひのきしん	14
ホスピタリティー向上研修	8～9	松江医療センター元気宣言！	15
年男・年女	10～11	外来診療表	16

基本理念 私たちは、真心と思いやりをもって良質な医療を提供します。



年頭所感

「今年のテーマは、チーム医療の推進」

院長 **とく しま たけし** 武

新年あけましておめでとうございます。平成22年の新春を迎えるにあたり、皆さまに心からお慶びを申し上げます。

昨年は当院にとって「記念すべき年」でした。すなわち4月に病院名を改称し、それにふさわしい新病棟が38年ぶりに完成し、「松江医療センター」としての新しいスタートをきった年でした。また厳しい医師不足の状況の中で、3名の医師（麻酔科、消化器内科、小児科）を新たに増員できましたし、リハビリも4名増員しました。臨床工学技士の枠もさらに1名確保できました。国立病院機構自体も新たな目標に向け、次の中期計画の初年度としてスタートしました。

今年はいったいどんな年になるのでしょうか？ 難題が山積みする中で誕生した民主党新政権は、大胆な政策転換で日本経済の浮上を狙っていますが、その行方はいまだ不透明です。医療や福祉の分野ではわずかに明るい兆しが見えています。新政権のマニフェストに掲げた医療政策では、これまで行われてきた年間2200億円の社会保障費削減は撤廃されました。医療費と医師数の引き上げ、地域医療への診療報酬の増額、勤務医の就業環境の改善、コメディカルや医療クラークの増員、後期高齢者医療制度の廃止と医療保険の一元化など、評価できる施策は多いと思います。4月の診療報酬改定も、10年ぶりにわずかですが0.19%のプラス改定の予定です。経済的不況の最中、限られた財源の中で今年はいかなる施策が実現されるのか注目して見ていかなければなりません。

当院にとっては、今年は第2期建替工事（外来・管理・サービス棟新築）に向けての準備の年です。病棟が新しくなると、それだけで職員のモチベーションが上がってゆくのを、昨年は実感できました。次は病院の中心部分の建て替えをめざします。そのためには国立病院機構のルールにより、建築工事費用の1/3の資金は病院で確保しなければなりません。この数年間でその資金は少しずつ貯まってきています。今後の資金確保のカギは、病院の年次計画達成による安定した経営にかかっています。病棟を新築した次年度の経営の充実を図るという意味で、まさに今年は正念場です。今年の経営業績を見て、この第2期建替計画を機構本部に提出する予定です。どうか皆さんの一層のご協力をよろしくお願いします。

そのためには当院の4本の柱である、呼吸器、筋ジス、重心、神経難病のすべての分野において、この地域のオンリーワン病院をめざして、そのブランド価値を高めて

いくことが大切です。もちろん院外に向けてのアピールも積極的に行い、地域の病院や診療所との連携もより緊密にしていきます。

ハード面では、大型機器について今年はリニアックの更新を申請中です。さらにCTやMRIの更新も今後計画しています。電子カルテも病院の建替えに合わせて導入を検討中です。

院内に向けて、今年のキーワードは「チーム医療の推進」だと思います。そのためには院内での情報交換と共同作業が必要です。職員ひとり一人が病院の診療内容や取り組みを詳しく知らないで、真のチーム医療はできません。そこで国の時代に行っていた院内発表会を今年復活します。11月の開院記念日に合わせて、各診療科の診療・研究や各職場のQC活動、医療安全の取組、クリティカルパス研究分析などを発表し、職員全員が参加し討議する場を設けます。いろんな職場のスタッフ達が、顔を合わせて熱心に情報を交換し、互いの立場を尊重しながら連携をとることが、まさに求められています。

最近チーム医療について、ある病院で起こった医療事故事例の報告書を読みました。心臓弁膜症患者に対し、人工弁置換術を行う予定で手術に入りました。人工心肺装置を付ける際に、新人の心臓外科医が動脈ラインと静脈ラインを間違えて接続しました。ベテランの指導医もそれに気づきませんでした。人工心肺を開始するとチューブの圧力が上がらないので、一人の臨床工学技士が異常に気付きました。彼はすぐに人工心肺を一旦停止し、全員で回路を点検するよう指示しました。そこで初めてミスに気づき、チューブは正しくつなぎ直され、幸い患者に後遺症は残りませんでした。この中でミスの原因や防止策が検討されましたが、最も強調されたのは「チーム医療の力」でした。この事例が命に関わるような大きな事故にならなかったのは、臨床工学技士が「これはおかしい？」とすぐに素直に言えたことです。チームのメンバーがなにもいえないような雰囲気ของทีมでは、本当のチーム医療は行えません。常日頃からこの病院で行ってきた、メンバー同士が熱心に話し合いながら仕事を進める「チーム医療」が、この患者さんを、ひいてはこの病院を、そして一人の外科医を救ったとこの報告では結んでいます。

複雑化・高度化する医療において、もはや個人の力量だけでは応えることができない時代になってきています。医師だけでなく、看護師やコメディカルなどの専門職の

総合力を結集することによってはじめて、医療に対する現在の様々な要請に適切に応えていくことができると思っています。

今年は「チーム医療」を積極的に推進しましょう。そしてお互い信頼し合い、共通の使命感を持ちながら、き

め細かい連携のもと、「やりがいを感じながら働ける職場づくり」を皆さんと一緒にめざしましょう。その先頭に立って今年も私自身奮闘することを誓い、新年のご挨拶といたします。

本年もどうかよろしくお祈りいたします。

医療教育研修室から

「地頭力を上げるには」

呼吸器科医長 医療教育研修室長 **かど** **わき** **とおる**
門 **脇** **徹**

明けましておめでとうございます！医療教育研修室も2年目に向けて気持ちを新たに動き出しております。発足当初に設定した今年度のマニフェストは計画通りに行われ、現在は主に次年度の計画を練っているところです。これについては次号の宍道湖にてご紹介したいと思います。

ところで、皆さんは『地頭力』という言葉をご存知でしょうか？「地頭力を鍛える」という本にその詳細が書かれています。少し前に話題になった本ですので読まれた方も多いと思います。これによると「地頭力」とは①仮説思考力、②フレームワーク思考力、③抽象化思考力の3つの思考力から成立するようです。“何のこっちゃ”と思うかもしれませんが、特に①と②は医療現場においても知らず知らずに活用している（勝手に行われている）思考過程であり、かつ極めて重要な考える力だと思います。医療現場においての①の仮説思考力とは患者さんの症状や検査所見などから、鑑別診断を挙げ、診断の後に治療をする過程でそれを検証していく思考です。経過のストーリーを描く能力と言ってもいいでしょう。早期の危機察知にもつながる重要な思考力です。②のフレームワーク思考力とは“全体を俯瞰して考える力”であり、思い込みをなくす思考です。医療現場では一つの検査値異常や症状で即座に対応しないといけない場合もたくさんありますが、慌てずに患者さんの状況を総括して把握する力もより重要なのです。

医療現場においては手順の標準化としてマニュアルが整備されており、それに則って行動することが勿論大事なのですが、基本的な能力としての『地頭力』は私は相当大事だと思っています。「デッドライン仕事術」という本では著者（元トリンプの社長）が“明確にマニュアル化できるもの（形式知）については教育できるが、マニュアル化できない経験やそれに基づく「勘」のようなもの（暗黙知）は教育できない”と記しています。これは私にとっては衝撃的なくだりでした。

それでも私は教育を提供する側の工夫によってマニユ

アル化できないところの『地頭力』を向上させることができると考えます。医療教育研修室ではこの『地頭力』向上に直接つながるものは現時点では行っておりませんが、受講した皆さんがより高い教育効果を得られるように講義形式を工夫しています。いわゆる“講義形式”では、講師の話の聴くことに終始するために受動的になりがちだからです。昨年11月に行った症例検討会では、職種を問わずグループに分かれてもらい、症例の経過を参加者自身で考えて話し合ってもらった“ワークショップ形式”で行いました。これまで行ってきた講義形式ではあまり見られなかった活発な議論・意見が見られました。また1月の「排痰コントロールの実際」では、各病棟の痰の吸引手法をビデオを用いて“プレゼンテーション”していく方式で行いました。まだまだ改善の余地がある“ワークショップ形式”や“プレゼンテーション方式”ですが、医療教育研修室としては大きな手ごたえを感じています。今後も皆さんのご意見を聞きながらこのような講義形式が適切と思われるものについては適宜採用していく予定です。

今年は医療教育研修室にとって2年目にあたります。1年目のスタートダッシュには成功したと自己評価しておりますが、更なる努力を続けなければなりません。スタッフの皆さんは日々の業務でお疲れのことと思いますが、当研修室の提供する講義に参加していただき、知識・技術の更なる向上、そして医療現場における『地頭力』向上を目指していただけたらと思います。



ビデオを使用した研修風景

第63回国立病院総合医学会に参加して

5階病棟 看護師 **おくはらまみ** **奥原麻美**



発表の様子

昨年10月23、24日の両日、第63回国立病院総合医学会が仙台で開かれ、私たちは昨年度取り組んだ看護研究を発表しました。

発表前日、一緒に研究に取り組んだ野津看護師と仙台駅に到着すると、前日から医学会に出席されていた徳島院長が会議の合間をぬって迎えに来てくださいました。遠く離れた地で不安だらけだった私たちに、仙台名物の牛タンをごちそうくださり、発表がうまくいくようにと激励してくださいました。

発表当日、会場には全国から様々な職種の発表者が大勢集まっていました。私にとって、院外での研究発表は今回が初めての経験でしたので、多くの人の前で堂々と発表できるか不安になりました。私たちの発表形式はポスターセッションでしたので、発表者と参加者の距離が

とても近く、緊張感はさらに増しました。私たちは「呼吸器手術後の肩痛軽減を目指す」という演題で、日頃行っている術後看護について発表しました。発表が始まると、多くの参加者がポスターに目を向けてくださり、発表後には質問やご意見もいただき、とても満足のいく発表ができました。さらに、予期せぬことにベストポスター賞までいただきました。

医学会では他にも様々なポスター展示やシンポジウムなどがあり、興味のあるものに参加して他の病院の取り組みも知ることができ、看護師としての知識や経験を深める良い機会となりました。

最後に、今回の学会発表のため、ポスター製作の際には多くの方にご協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。



いただきました！
ベストポスター賞（学会限定のUSBメモリです）

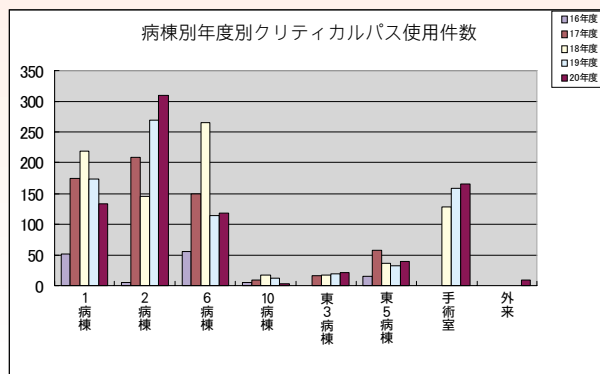
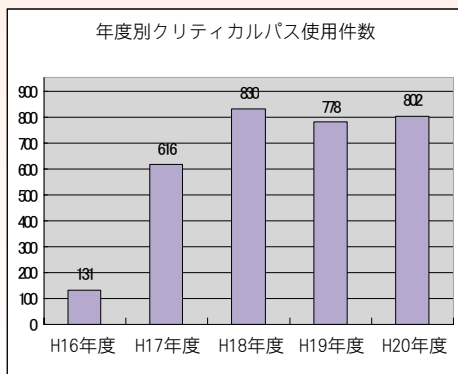
第4回クリティカルパス大会を開催して

クリティカルパス委員会委員 2階病棟看護師長 **さんとうみほ** **山藤美穂**

平成21年11月4日、第4回クリティカルパス大会を開催しました。参加者は44名でした。今までは、バリエーション分析を中心に発表していましたが、各部署のスタッフも替わり、改めてパスについての知識を確認すること、使用方法を徹底することをテーマとしました。最初に目次外科医長からクリティカルパスの目的、作成方法について説明があり、次に松岡師長に、クリティカルパスの使用方法を使用基準に沿って説明してもらいました。最後に私が、今までのクリティカルパスの使用状況について発表しました。現在までに作成したパスは29種類あり、

グラフの通り使用数も増加傾向にあります。また、使用数の多い順に見ると、気管支鏡検査が年間250~300件、全身麻酔パスが130~150件、筋ジスドックと結

核のパスがそれぞれ50~70件ありました。病棟別に見ると一般病棟の使用数も多く慢性期の病棟は少ない傾向にありました。当院は他院に比べ疾患の種類も少なくパス作成数にも限界がありますが、今後、嚥下訓練や・化学療法・地域連携パスを作成することによってパスの種類・使用件数の増加を図りたいと考えています。この会の中で、パスのアウトカムを具体的に記載した方が良いという意見も頂き、クリティカルパス委員会で検討していきたいと思っています。今後もパスに関するご意見をぜひパス委員会へ提出していただくようお願いします。



第2回医療安全管理研修会

結核について知識を深める

医療安全管理室 医療安全管理係長

いし かわ かず え
石 川 和 枝

研修風景

医療安全の確保は、医療政策の最も重要な課題のひとつです。医療関係者の意識向上、医療機関における組織的取り組みの促進を図ることを目的として「医療安全推進週間」が位置づけられています。松江医療センターの安全推進の強化内容として今年度は、「結核」について取り上げ研修会を実施しました。当院は島根県全体と、鳥取県西部の結核患者の受け入れを行っています。新病棟に移転し結核患者は、4階病棟に12床ベッドを確保し対応にあたっています。

現在もまだ重大な感染症として結核は考えられており、忘れてはいけない疾患です。呼吸器病センターとして勤務する全職員がまず学習していくことが大切であり、感染症である結核について知識を深めることで



松岡看護師長

専門性を高め、院内感染の防止が確実に実施できるよう全職員対象にして講演会を行いました。

矢野統括診療部長は、「結核の現状」としてQFT（クォンティフェロンTB-2G）という感度・特異度にも優れた診断法が開発され、結核診断が飛躍的に進歩

したことや感染者の把握がより正確になっていることなど説明されました。末廣検査技師は、「抗酸菌検査」として当院における検査の流れを説明されました。最後に松岡看護師長に「院内における結核対策と看護」で実際の結核ユニットでの看護について、感染予防として陰圧室での構造等説明してもらいました。

1回の研修会では十分に理解できない部分もあったのではないかと察します。今後随時機会を設けて学習していけるよう、研修計画をしていく予定です。当日参加できなかった職員には、部署ごとに結核についての資料を配付して回覧し、ひとりでも多くの人に伝わるようにしています。



矢野診療部長

医療安全管理室では、毎年医療に関する研修会を定期的で開催していきます。

ぜひ、みなさんご参加ください。そして、ご意見・ご要望等ありましたらお知らせ下さい。お待ちしております。



末廣検査技師

看護部教育委員会から

「口腔ケアを見直そう」と「看護と倫理」の取り組み報告会を開催して

看護部教育委員会副委員長 手術・中材看護師長 矢倉^やみどり^{くら}

今年度は「口腔ケアを見直そう」、「看護と倫理」という2つの課題について各部署での取り組みを共有し、活用していくことを目的とした報告会を11月16日に行いました。以下はその概要です。

<口腔ケアを見直そう>

当院には難病疾患の患者が多く入院されています。口腔ケアはう歯（虫歯）や歯周病の予防のみならず、肺合併症の予防にも関与するとともに重要な看護ケアの一つです。しかし、その疾患が原因で顎関節に拘縮をきたし開口困難のある場合や、意思の疎通が図りにくくケアをする時に協力を得ることが難しい場合などの問題を抱えています。そこで「口腔ケアを見直そう」というスローガンのもと、昨年からの取り組みを始め、現状を見直し個々にあったケアを推進するために歯科医師の上田雅康先生を講師としてお招きして研修会を行いました。昨年は口腔ケアの大切さと歯ブラシの正しい使い方等を、今年は歯ブラシの当て方、開口しやすくするための口輪筋のストレッチ、ケア時のポジショニングなど病棟ラウンドによる具体的な指導を受けました。病棟を研修の場としたことで多くのスタッフが効果的な口腔ケアを学ぶ事ができました。この研修後実践した内容を「口腔ケア取り組み報告会」という形をとり全体で意見交換を行いました。

- 1 階病棟：病棟での勉強会開催、アセスメント票を用いたの評価
- 2 階病棟：ケアに拒否的だった患者の心理的变化
- 3 階病棟：歯磨きを嫌がる患者のかかわり方
- 4 階病棟：口腔内乾燥患者に対するケア
- 5 階病棟：番茶を使用した口腔ケア
- 第10病棟：舌苔のブラッシング

といった発表内容でした。各病棟の発表に、講師より開口補助時の声かけをはじめとするアプローチについてなど多くのアドバイスと、日々のケアが継続され積み重ねられている成果として「臭いが本当にしなくなってますよね」という言葉を頂きました。研修後のアンケートには、他病棟のことがよくわかった、参考にできることが多くあり情報の共有ができた、ケアの大切さを再認識することができ、続けていく励みになった。という声がありました。

<看護と倫理>

NHO米子医療センター附属看護学校の中田教育主事を講師として3年前より研修会を開催し、日頃感じたり気になったりしている身近な事から話し合っ、「人権・看護倫理」について考え検討する場を設けてきました。昨年度は、研修参加者自身の研修後の患者さんへのかか

わりについてレポートすることにより、個人の気づきや課題等を見いだしたり改善に繋げることができました。今年度は、病棟全体での意識の変化や取り組みにつながるように、日々の看護の中で“あれっ？”と思う事などの事例を各病棟あるいは参加者から事前レポートとして集め、それを基に講義とグループワークにより倫理について語り合う場を持ちました。研修前に実施したアンケートには、“人権についての視点を広げたい”、“日々の看護のなかでの倫理について振り返り、それを考える機会としたい”といった研修会への期待感がありました。その期待は、研修会後の振り返りの中で、“倫理についてどう考えるか他の人の意見が聴け、日々の関わりについて考えるよい機会を得た。”、“明日からの仕事につながる”等の感想があり、研修のねらいは達成できたと思います。さらにフォローアップ研修を企画し、その気づきを深めていけるよう取り組み報告会を開催しました。報告内容は、「ナースコールの対応」、「患者さんの呼称についての意識」、「抑制について」、「倫理・人権について意識した場面」、「ALS患者A氏の排泄面のかかわり」でした。意見交換も活発に行われ、1人1人が日頃感じている思いには大切な意味があることに気づくことができました。そこで出された意見が病棟オリエンテーションの一部変更、入院案内への記載などの改善に繋がっています。以下にその一部を紹介していただきます。

『看護と倫理』研修後の取り組みについて

(3 階病棟 松尾 泰代)

3 階病棟では、『看護と倫理』の研修後にカンファレンスを実施し、取り組み内容を検討していきました。今まで重症心身障害児(者)の病棟では、患者さんの呼名をする際に、発達年齢、発達段階に合わせて、愛称が多く使われていました。幼少期より同じ愛称で生活されてきた事やご家族の方からのご要望もこの背景にあります。しかし、成人している患者さんを『〇〇ちゃん』といった愛称で呼名し続けていくことがどうなのかと考えた時、人権を配慮し『〇〇さん』と呼ぶ事が当然のことではないのかという意見でスタッフの考えがまとまりました。今後は原則、苗字も名前も『〇〇さん』と呼名する事を取り組んでいくことにしました。呼び方を変更する事で、患者さんの混乱を招くのではないかという声もありましたが、「患者さんの反応が良くない」等の変化はあ

りませんでした。しかし、取り組み過程で、ご家族から愛称での呼名希望があった方が1名。本人からの希望は2名でした。その方には希望の愛称で呼名し、思いに添うようにしました。まだ、呼び間違いをしてしまうことも時々ありますが、お互いに注意し合って意識を高めています。

もう一つの取り組みは、抑制についてです。安全ベルトなどの使用が、最小限のものとなるようにチームで取り組んでいくというものです。受け持ちの看護師を中心に、ベッド臥床時、車椅子乗車時の抑制方法や時間を検討していきます。少しでも患者さんの苦痛が少なく、且つ安全に病棟生活が送れるよう、現在検討している段階です。

「呼名について」、「最小限の抑制について」のどちら

もが、重症心身障害児(者)病棟特有の問題です。私にとっては、この取り組みを行なうことにより自己を振り返り、自分に欠けている人権の意識や行動を知るきっかけとなりました。普段なにげなくしてきた事に疑問を抱き、改善策を模索していくことが、人権に配慮した思いやりのある行動に繋がる一歩だと学びました。自分自身の気づきや、この課題に取り組もうと決めた病棟のスタッフの思いが薄れることのないように、今後も取り組みを進めて行きたいと思います。それに加え、年に2回実施してきた“人権についてのアンケート”を今後も継続し、その結果を病棟全体で振り返り、疑問点についての意見交換をしながら、常に人権について考え行動に移せる私たちでありたいと思います。

第7回（2009年度）国立病院看護研究学会学術集会に参加して

医療教育研修室 教育担当看護師長 ^{すぎ} ^{たに} ^{みなこ}
杉 谷 美奈子

昨年(2009年)の12月12日(土)に国立看護大学校で行われた看護研究学会学術集会に参加してきました。当院からは示説3題を発表し、日々看護をしていく中で同じ問題を抱えている人、取り組みをしている人々が、それぞれの



スタンバイ状態？

ポスターの前に集まって質疑応答や、意見交換を行いました。新人指導実践表の発表では、新人指導に日々取り組んでいる人たちからの質問やそれぞれの現状を出し合い、活発な意見交換が行われました。

耳介褥瘡予防の取り組みの発表では、同じ問題を抱えている若い看護師からの体位やビーズ枕についての質問や、また経験のある看護師からは「体位についてそれぐらいの角度がいいと思うわ」などといった経験上の意見も出て、

発表者自身もより知見が深まったようでした。

ナースコールの研究の発表では、新病棟のナースコールシステムに話が及び参加者の関心を引いていました。(発表のテーマ等については、下表をご参照ください。)

学会に赴きそこで発表するという事は、本人のプレゼンテーション能力の向上はもとより外部の新鮮な情報を採り入れる良い機会ともなります。これからも、学会にどんどん参加していきたいと思えます。



発表の様子



テーマ	所属	発表者
鳴り続けるナースコール ー筋ジストロフィー病棟のナースコール実態調査分析ー	2階病棟	石原ひとみ
耳介の褥瘡予防の取り組み ー意思疎通及び頭部体動困難なALS患者を通してー	10病棟	藤原 知恵
3ヶ月研修で得た先輩看護師に求められる指導法 ー新人指導実践表の作成ー	副看護師長会	土江みづえ

ホスピタリティ向上研修を開催しました

「ホスピタリティ」と云う言葉は、「思いやり」「心からのおもてなし」といった日本語に訳することが出来ます。マニュアル通り、人の教え通りの接客ではなく、“心を込めた” 応接・接客のことを指すとされています。昨年から当院では、鳥取大学医学部総合医学教育センター学部教育支援室准教授の高塚人志先生を講師にお招きし、院内研修会を行っています。受講生の中から2名の方にその感想を聞いてみました。



講師の高塚先生

「ホスピタリティ向上職員研修(全6回)」に参加して

第10病棟 看護師 瀬田 美保子

新年おめでとうございます。皆様方にはますますご健勝のこととおよろこび申し上げます。新年号にこのような場を頂き身の引き締まる思いです。

今回の研修は、高塚人志先生をお迎えし6回シリーズで毎回テーマとねらいを決めた気づきの体験学習です。先生から、人として、医療人としてひたすら自分と向き合い、自分を見つめ、今の自分自身の生き方や人間関係を見つめ直す一助としたいというメッセージをいただきました。先生のお名前は数年前より存じており、一度機会があればと思っていたところ、今回聴講できることと



研修風景

なり、先生を始め関係者の方々にお礼を申し上げます。

初回から立て板に水のごとく次から次にお話なさるお姿に、なんて自分の考えや信念を持っているということはこんなにも人を引き付けるものなのだなあと、あらためて感心して、講義に引き込まれていきました。何回めかの講義のなかで、親が小さい子供に、「いないいないばあー」をしてあやすけれども、これにどんな意味があ



これも研修風景

るか分かりますかと問われた時、衝撃でした。私は日頃から物事をあまり深く追求することが出来ていないなあと思うことがしばしばで、後悔や心配で終わっていることが多いと感じているからです。子育てもほぼ終わり、今は孫の喜ぶ顔見たさに「いないいないばあー」とあやしているけれど何故なのかなんて考えても見ていませんでした。人と人との関わる意欲を誘う働きかけ、そんな深い意味があろうなんて、感心ひときしり。そして反省。

これまで、いろいろな研修に参加して、人間関係にはコミュニケーションが大切、相手の立場に立ってなどと学び、頭では分かっていた。しかし、相手の立場に立つということは各々の違いが分かるということだと教えていただき自分の中にスーッと落ちるものを感じました。

更にそれを、身をもって気づく内容と方法の講義が盛り沢山で毎回納得いくもなっています。久しぶりに楽しい笑いあり感動ありの研修に参加できました。先生の講義にはもっともっと深いお考えがあると思います。私



目が見えない人と喋ることが出来ない人の散歩

の気づきはその中のほんの一握りだと思いますがこれまでの急げ急げの毎日を、一步立ち止まり、関わる人の立場や思いに心を寄せるように務めたいと思いました。ありがとうございました。

最後になりましたが、先生には、お身体ご自愛されましてのご活躍をお祈り申し上げます。

しあうこと”がとても重要なことだと言われていた。自分ではそのような気持ちで接しているつもりでいたが、この研修を受講する中で、意外とそうではない自分をみる事ができた。

医療の現場では、“チーム医療”とよく言われますが、チームで一つの事を成し遂げることの難しさを第5回目の研修で実感した。体験学習“図形づくりにチャレンジ”、6名1組のチームを作り配布されたパズルを6名が、各々同型同大の図形を限られた時間内に作りあげる研修。



3人は出来たけど……

(ルールは割愛) 自分の事だけに専念しているため、他メンバーのことに関心がなくなり、自分のいらぬものを相手に渡してしまう。このようなチームでは決して目的を達成することができない。目標を達成するためには、常に他のメンバーに関心を持ち、配慮することが必要不可欠だと感じた。(私達のグループは図形を作りあげることはできなかったが……) お互いの考え、気持ちを理解しあい、常に相手のことに関心もち、配慮することがチーム医療にも、社会(職場、地域、家庭)にも必要であることを実感した。

高塚人志先生の“ホスピタリティ向上研修”は私にとって為になる研修でした。



図形作りルール

“みる、きく、伝える”ホスピタリティ向上研修

研究検査科病理主任 福田 智

一枚の紙を渡され、“私の指示に従って図を描いてください。最初に三角形を上と下に3つ描いてください。その次に円を描いてください。次に線を一本引いてください。”と高塚人志先生(鳥取大学医学部准教授)は課題を出された。全員が描き終えたあとに他の人が描いた図を見て回ったが一人として同じ図を描いた人は居なかった。同じ内容の指示に従って描いたのに……自分と全く同じ考え・思いの人の居ないこの社会環境の中で生活し仕事している訳で、そこにコミュニケーションの必要性が出てくる。高塚先生は“お互いの考え・気持ちを理解



出来たあ～

年男・年女

笑顔のために

3階病棟 療養介助員 **西尾 達也**

去年は八月に新病棟への移転と、新しい患者さんとの関わり、新しい日常業務、夜勤の開始などなど……毎日がとても大変でした。

しかし、同時に多くの学びと喜びもありました。新しい患者さんとどのように関わったらよいのか戸惑うことも度々ありましたが、はじめは笑顔を見せてもらえなかった患者さんに笑顔を見せて貰えるようになり、思わぬ手作りのプレゼントなど、嬉しいこともたくさんありました。患者さんの人数が増え大変なこともあります、人数に比例した沢山の笑顔を見ることができました。

そんな新病棟で迎える今年の抱負は「笑顔」です。面白い時の笑顔、安らいだ時の笑顔……笑顔にも様々あります。今年は去年以上に患者さんに「笑顔」で生活していただくため、安心できる介護・生活の場を提供出来るように、基本を大切に頑張っていきたいと思っています。

笑顔で頑張る

4階病棟 看護師 **野尻 麻衣子**

松江医療センターに就職してから、9か月が過ぎました。初めて年女を迎えた12年前は、まさか自分が将来看護師として働いているなんて、想像もできなかったと思います。就職してからの9か月は、本当にあっという間でした。初めて経験することばかりで、分からないことや戸惑うことが多く、自分のことで精一杯になってしまい、周りを見ることができず失敗ばかりの日々でした。ですが、先輩方や様々な方々からのご指導や暖かい言葉を頂き、頑張ってきました。

今年は、自分の事ばかりでなく周りの状況を見ながら行動できるようにしていきたいです。また、患者さんの声をしっかりと受け止め、患者さんの立場に立った看護を目指していきたいです。まだまだ、余裕などありませんが、日々笑顔を決やさず頑張っていきますので、皆さん今年もよろしくお願いします。



年女の抱負

5階病棟 看護師 **藤田 真奈美**

私は、松田聖子と同じ年に生まれ、福山雅治と誕生日が同じB型です。好きな事はテニスです、多分うちの病院では上手な部類に入ると思います。というのも休みの日なら天候や一緒にやる人がいなくて出来ない時以外は同年代の仲間と2時間はやっています、と言ってもお喋りしている時間も長いんですが……このやる気が仕事に対してあればそれなりになっていたのではないかと思います。仕事に対してはお金をもらっているのが当然すべき事はするつもりですが、以前は看護に対しての想いは強い方ではありませんでした。学生時代など、周囲で「博愛精神」だとか「患者様の為に」とか言われる事に対し反発はしないものの心の中では同調していない自分がいました。それが最近何かあったというわけではないのですが「他人の為は、自分の為。他人の不幸、世界の不幸に自分の幸せはない」という感覚をちょっと持つことが出来ました。偉そうな事を書きましたが、今まで皆さんに支えられてここまでやってこれました。

これからも自分に出来る事をやっというと思っています。よろしくお願いします。

年女として

リハビリテーション科 理学療法士 **中山 真喜**

今年、年女になりました。昨年の4月に理学療法士の免許を取得してから、1年が経とうとしています。昨年は松江医療センターでの業務に慣れる事、松江という土地に慣れる事で手一杯でした。ホームシックで毎月のように実家の岡山に帰省していますが、今年はずっと松江で積極的に活動して、松江が大好きになれたらいいなと思います。

また、松江医療センターにやっという慣れてきたところですので、今年には理学療法士としての知識や技術を高めるべく、昨年よりさらに積極的に勉強会や講習会などに参加して、自分のものにしていけたらいいなと思います。寅年の女らしく、初めてのことにも尻込みせず積極的に頑張りたいです。

寅年の年々

研究検査科 臨床検査技師 **あきやま ちかこ** 秋山 智佳子

寅年生まれ。なんとなく強暴なイメージです。

そんな私に、昨年亡くなった祖母が教えてくれた言葉があります。

「天国の言葉」

- ☆ついている
- ☆うれしい・楽しい
- ☆感謝しています
- ☆しあわせ
- ☆ありがとう
- ☆ゆるします

こういう言葉をたくさん言っていると、また言いたくなるようなしあわせなことが、雪崩のごとく起きるそうです。

新年を迎え、この天国の言葉と共に感謝の気持ちを忘れない一年にしたいと思います。

年々（2施設目？）

第10病棟 看護師 **たぶち** 田淵 まゆみ

12年前に前の勤務先で年女の一言を書いたから、もう12年も経つのかと思うとアッという間だった気がします。

看護の道を選んで家族の元を離れて16年、たくさんの人と出会い、支えられてきました。その中で出会った、「家族看護」という分野を勉強しているうちに、自分の家族のことを重ね合わせて考えることも多くなり、一年前に生まれ育った松江に戻ってきました。看護師になって、辛いこともあったし、自分には向いていないのかも……と考えたこともありましたが、今は自分の知識や技術が仕事としてだけでなく、家族のためにも役立っているので、自信を持って続けていこうと思っています。



院長杯争奪ボーリング大会

11月4日に第3回院長杯争奪ボーリング大会が開催されました。大会会場のセンターボウルさんがレーン調整を大甘にしてくださったのか、ハイスコアでの決着を見ました。優勝者は写真の方で（予想外との声も……）、優勝候補であった放○線○の國○選手は周囲のプレッシャーに負け、敢えなく沈没。大

会終了後、反省会を行い皆で日常業務への鋭気を養いましたとき。皆さんも次回以降の院長杯争奪戦に参加して、院内の親睦と日常業務への鋭気を養いませんか。（今回の宍道湖が発行される頃には第4回大会が終わっているとは思うんですけど）



開会挨拶



を聴く面々



第3回大会優勝者



反省会の様子



優勝トロフィー

2階病棟患者さんの創作活動紹介

療育指導室 保育士 ^{わた} ^{なべ} 渡部 みどり

「1階・2階・3階の患者さんが色々な事をされているのが分かりました。」「患者さんの作品に感動しました。」「こんな事をされていたとは知らなかったです。患者さんの作品をもっといろんな方に観てもらいたいです。」

これは、去る10月4日(日)「1階・2階・3階病棟合同文化祭」を開催した後、4階・5階の入院患者さんや職員から頂いた感想の一部です。4階・5階の入院患者さんはもちろんのこと、職員も1階・2階・3階の患者さんの活動を知らない方が多いのではないかと思います。そこで、「穴道湖」の紙面を借りて2階の患者さんの創作活動を紹介したいと思います。

人工呼吸器を装着し、仰臥位姿勢で胸の上で、手指の微細な動きを使ってパソコンマウスを巧みに扱い、独学で習得したコンピュータグラフィック(CG)を用いて絵を描いている方がいます。繊細な曲線で描き出される絵は、観る人に感動を与えています。作品は、CGコンテストや地元の文化祭に出品されています。今回の文化祭では、93×103cmの大きさの作品を3枚、手作りの素敵なイーゼルに飾られました。

写真を趣味として活動されてきた患者さんのお一人は車イスで外出されていた頃から続けてこられました。作品は、県展や松江市民美術展に出品されています。しかし、呼吸器を装着され病状によりほとんど外出が困難となり写真を撮る活動も困難になりました。ご本人は「写真を撮りたい」気持ちを持ち続けておられ、看

護部と療育指導室が連携して支援を行い、家族の協力もあって、院内を散策しながら好きな植物を撮影されました。今回の文化祭には、この時撮影した写真をパネルにし展示されました。中庭にさりげなく咲いていた花の写真から、患者さんの優しい感性が伝わってきます。

長年に渡り七宝焼作業に取り組んでこられた患者さんは、ベッド離床困難になられてからも保育士の支援により、側臥位で行えるよう道具を利用し、根気の要る作業を一つひとつ丁寧に行われてきました。ハガキ大の作品を、松江市民美術展に出品されています。10数年の間に、ハガキ大の作品を6枚仕上げられ、今回の文化祭は集大成として六作品と小物(アクセサリーなど)を展示しました。

筋ジストロフィーの患者さんは、病気の進行に伴い人工呼吸器装着後、離床困難となりベッド生活を余儀なくされます。しかし、諦めることなくベッド上で創作活動に取り組み続けている患者さんたち3名の方の活動を紹介させていただきました。どの方の作品も力作であり、作り上げることが生きがいでもあり、日々色々な思いを込めながら作り上げられた作品だけに、観る側に制作者のエネルギーが伝わってきます。その他にも創作活動を地道に続けてる患者さんが沢山いらっしゃいます。また機会を見つけてはご紹介していこうと思っています。



患者創作活動 1



患者創作活動 2



患者創作活動 3



患者創作活動 4

電動車椅子サッカー中国選手権大会に行ってきました！

松江コンビグ東広島遠征記 パートⅡ

療育指導室 児童指導員 **いちかわひろのり** 市河裕智



作戦会議

去る11月8日（日）、電動車椅子サッカー中国選手権大会後期日程に2階病棟の筋ジス患者さん5名と、外来患者さん2名の計7名

の選手が参加しました。今回は、前期日程で対戦をしていないチームとの対戦がありました。

試合結果は残念ながら完封負けを喫してしまいましたが、前期日程の時もそうであったように、試合中の選手たちの真剣なまなざしは、普段の病棟生活ではあまり見ることの出来ないとてもいい表情であり、彼らの電動車椅子サッカーに懸ける意気込みを雄弁に物語っていました。そして、彼らの目標もその意気込みに比例していて、チーム結成当時は、単純に「仲間内でサッカーを楽しみたい」というものであった



試合開始直前

ところが、「自分たちの実力を交流試合で確かめたい」に変わり、現在ではこの大会に出場したことで、山陰地方のパイオニア（現在、山陰では唯一のチームです!!）

として「試合で勝って実績を残したい」といった頼もしい目標へと様変わりしています。

大会当日のサプライズとして大会事務局のご厚意により、中国事務局選抜選手（日本代表候補もいました!!）とのドリームマッチも企画して頂き、選手たちも今後の試合運びや練習の参考になったと思います。

選手の皆さん、お疲れ様でした。遠征に際してお世話をした頂いた皆さん、有り難うございました。

松江コンビグはこれからも頑張りますので、応援よろしくお祈りします。

全日程試合結果（予選）

対アイアンポニー(広島)戦 0対3
対ヴィゴレ(岡山)戦 0対5
対エルスト(広島)戦 0対5

*勝ち点0、順位4位でした。

<チームからのお願い>

ただいま、支援ボランティアを募集しています。毎週、木曜日の午後5時30分から7時30分までの2時間でご協力して下さる方を探しています。場所は2階病棟・体育館、内容は介助、用具の取扱、後片付けなどです。

お問い合わせは、療育指導室 市河（内線787）まで。



選手団一同写真

しじみ会

十月中秋号 十一月晩秋号 十二月初冬号

リハビリテーション科 作業療法士 **み い たか るみ** 三井貴史

- ・稲刈りの 匂い懐かし 秋便り
となりの住人
- ・雲海を 眺める棚田の 案山子かな
やどかりさん
- ・黄金色 何処まで伸びる 大銀杏
永島さん
- ・金婚の 仲睦まじさ 手本かな
[K]さん
- ・夕焼けて 足もと絨毯 濡れ落ち葉
京の静さん
- ・杖先に 一葉紅し 秋に入る
けんーさん

- ・リハビリだ 手足じゃなくて 脳みそを
ヒミコジャパンさん
- ・秋の風 気がつけば 冬の朝
みーさん
- ・成長期 冬眠さける すべ知らず
かとさん
- ・庭先で 山茶花さき 冬近し
矢島句湖人さん
- ・いつの日も あなたの笑顔に 励まされ
米子医療センター附属看護学校 河村 歩

栄養管理室
よい

海と山の幸でバランスが良いおせち料理etc.

栄養管理室 管理栄養士 ^{おおかわち} ^{とも} ^み
大河内 友 美

お正月の楽しみとして、おせち料理を思い浮かべる方も多い事と思います。

おせち料理は正月料理ともいわれ、五穀豊穡を願い、家族の安全や健康と子孫繁栄を祈り、海の幸や山の幸を盛り込んだものです。当院のおせち料理も、海と山の幸そして日本の伝統的な食材を取り入れたおせち料理に仕上げてみました。

昨年は相次ぐ食品偽装事件により、食についての安心安全に対し非常に関心が高まった年となりました。当院栄養管理室でも、より安全な給食と、より患者様に楽しんでいただける給食について考えることが多かった一年でした。

ここに、その一部をご紹介します。

<鶏肉を大山地鶏に変更！>

使用頻度の高い食材の一つである鶏肉をブロイラーから大山地鶏に変更しました。地元食肉店の協力もあり、より安心な食材での提供が出来るようになりました。

<手作りサンドイッチ復活！>

手作りサンドイッチがメニューに復活しました。食材の高騰・調理人員の削減・施設の老朽化等々の問題から、いつしかメニューから消え去っていたもので、久々のお味に入院患者さんからの反響も大きかった様です。

<病棟食事会開催>

3階病棟では‘祭’をテーマに「おでん・やきとり・すし…」などの屋台の雰囲気たっぷりの食事会を開催することが出来ました。1階・2階病棟でも‘日頃食べられないメニューで’とのご要望にお応えした盛大な食事会開催となりました。

さて、新しい年となりました。海と山の幸でバランスの良い給食、安心安全で楽しい給食を皆さんに提供し続けることにより、前向きに進むことが実感できる一年としたいと思います。



おせち料理です。



手作りサンドイッチ (あっさり系)



食事会のメニューも作ってみました



3階病棟食事会の料理

天理教ひのきしん

昨年の11月10日にまたまた天理教の皆さんのお世話になって、敷地内の草刈をしていただきました。玄関周りを中心にその周囲の範囲をお願いし、いつも通りに綺麗にさせていただきました。この頃に草刈をしてもらうと翌春まで持つので助かります。大変有り難うございました。



今回も良い天気でした



坂本庭園近くを作業中



機械力、人力併用で。

●●● 松江医療センター元気宣言！ ●●●

5階病棟クリスマス会を開催しました！

5階病棟クリスマス会実行委員 おかもとあつこ 岡本敦子



サンタ！とトナカイ？

昨年の12月16日に、新病棟になって初めてのイベント“クリスマス会”を開催しました。さて、どんな内容にしようかと試行（思考？）錯誤していたところ、肺がんサロン代表の吉田さんが「第九“歓喜の歌”」（年末、日本全国のあちらこちらで歌われるアレです）を歌われることをお聞きし、早速クリスマス会で歌っていただけないかとお願ひしたところ快諾していただき、さらにさらに、吉田さんのお知り合いの野々内さとみさんという方に、キーボードの伴奏もしていただくことになりました。おおまかな内容が決まったので、後はそれに合わせた機材や配布物などの準備を進めて行き、開催日当日は、管理課の方々にも協力していただいで会場作りを完了（写真参照）。軽やかなクリス



会場の様子

マスソングが流れる中でクリスマス会は始まりました。まず、院長先生扮するサンタクロースと5階病棟スタッフ扮するトナカイ（犬ではありません。トナカイです。）が登場。つづいて野々内さんの紹介の後、キーボード

の伴奏に合わせて「雪」、「知床旅情」、「リンゴの唄」、「きよしこの夜」などの歌を患者さん、御家族の皆さん、そして病院スタッフも一緒に皆で歌いました。歌の合間には野々内さんの楽しいトークや、リズムに合わせて手を使って行う簡単な体操もあり、患者さんも終始笑顔で楽しそうにクリスマス会のひとときを過ごされていました。また、吉田さんには「雪の降る町を」の独唱を披露していただき、年齢を感じさせない張りのあるその声に聞き入ってしまいました。吉田さんは数年前、肺の手術を経験しておられ、「それでもこうして歌えます、病は気から」と激励してくださいました。



野々内さん

今回、60名近い患者さん、ご家族の皆さんの参加があり、「何年ぶりかで腹の底から声を出して歌いました」と喜んでいただきました。また、会場に出られなかった患者さんからも、「知っている歌が聞こえてきた」と喜んでいただきました。約1時間の短い時間ではありましたが、とても心地よい時間を過ごすことが出来たのではないかと思います。

今回クリスマス会を開くにあたりご協力いただきました吉田さん、野々内さん、スタッフの方々、ありがとうございました。今後もこの様なイベントを計画し、患者さんに日頃と少し変わった癒やしの場を提供していきたいと思ひます。



力作のクリスマスツリーです

外来診療表

お気軽にご相談下さい

平成21年4月1日～

診療科	日	月	火	水	木	金	専門領域
呼吸器内科	日	矢野	小林	木村	門脇	池田	【呼吸器内科】 竹山 博泰 矢野 修一 池田 敏和 小林 賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 若林 規良 石川 成範 【副院長】呼吸器一般・アレルギー 【統括診療部長】呼吸器一般(肺循環・肺がん・結核他) 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般・アレルギー 呼吸器一般
	月	若林	若林	竹山	竹山		
循環器内科	火		門脇	池田	矢野	小林	【循環器内科】 石川 成範 循環器内科一般
消化器内科	水					石川	
神経内科	木				足立		【消化器内科】 石原 孝之 三原 修 消化器内科一般 消化器内科一般
外科	金					荒木	
小児科	日	久保田(予約)	齋田(予約)	齋田(予約)	久保田(予約)	齋田(予約)	【神経内科】 足立 芳樹 下山 良二 神経内科 神経内科・リハビリテーション
	月	齋田	久保田	久保田	齋田	久保田	
発達専門外来	火		(予約)				【外科】 徳島 武 目次 裕之 荒木 邦夫 高木 雄三 中井 勲 【院長】呼吸器外科・胸腔鏡下手術(肺がん・自然気胸他) 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科
予防接種	水						
肺がん検診	木	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	【小児科】 齋田 泰子 久保田 智香 重度心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害・重度心身障害
睡眠時無呼吸外来	金				呼吸器科 担当医(予約)		
息切れ外来	日		呼吸器科 担当医(予約)				【麻酔科】 木下 謙 麻酔科標榜医・一般外科
喘息アレルギー外来	月			竹山(予約)	竹山(予約)		
咳嗽外来	火			竹山(予約)	竹山(予約)		診療時間 8:30~17:15 受付時間 8:30~11:30 自動再来受付 7:30~11:00
禁煙外来	水			竹山(予約)	竹山(予約)		
アスベスト外来	木			竹山(予約)	竹山(予約)		独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター 呼吸器病センター 〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号 電話 (0852) 21-6131(代) 医療連携室直通電話 (0852) 24-7671 医療連携室 F A X (0852) 24-7661
嚔下障害外来	金		下山(予約)				
神経難病外来	日		下山		足立		シンボルマーク
筋ジストロフィー専門外来	月				下山(予約)		
セカンドオピニオン外来	火	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	

小児科発達専門外来	診療日: 毎週月～金曜日 内容と特色: ことばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけ、などの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っています。
肺がん検診	診療日: 毎週月～金曜日 15:00～16:30 (要予約) 内容と特色: ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。料金5,250円(+喀痰検査6,300円税込み)
睡眠時無呼吸外来	診療日: 毎週木曜日 14:00～16:00 (要予約) 内容と特色: いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
息切れ外来	診療日: 毎週火曜日 13:00～15:00 (要予約) 内容と特色: 息切れの診断と治療を行います。
喘息アレルギー外来	診療日: 毎週水・木 9:00～12:00 (要予約) (日本アレルギー学会専門医・指導医が担当) 内容と特色: 成人気管支喘息・花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
慢性咳嗽外来	診療日: 毎週水・木 9:00～12:00 (要予約) (咳嗽研究会会員が担当) 内容と特色: 3週間以上長引く、咳(せき)や喉の異常感でお悩みの方。声楽家・アナウンサー・教師など声を重要な手段とされる方の悩み。
禁煙外来	診療日: 毎週水・木 9:00～12:00 (要予約) (日本呼吸器学会専門医・指導医が担当) 内容と特色: 禁煙を志す方の検査、診断と相談に応じます。
アスベスト外来	診療日: 毎週水・木 8:30～11:00 (要予約) (日本呼吸器学会専門医・指導医が担当) 内容と特色: 石綿(アスベスト)曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
嚔下障害外来	診療日: 毎週火曜日 8:30～ 嚔下障害外来 (要予約)
神経難病外来	診療日: 毎週火・木 8:30～ 神経難病外来
筋ジストロフィー専門外来	診療日: 毎週木曜日(予約=指導室まで) 8:30～ 内容と特色: 筋ジスト病棟医が診療に当たります。診断から在宅ケアのための医療や介護・福祉サービスの紹介など専門的、総合的外来です。在宅患者に必要な定期的精査短期入院(筋ジストック)も受け付けています。
セカンドオピニオン外来	診療日: 完全予約制 紹介状必要です。 内容と特色: 呼吸器・呼吸器外科・神経内科・小児科(筋ジスト)の専門医(医長)が担当致します。